

hap·py

→ go

→ luck·y

【ハッピー・ゴー・ラッキー】

形 <人の行動が>のんきな、気楽な。

名 10代におくるブックガイド。

はぴ  号

2010年7月発行

【編集・発行】

さいたま市立中央図書館

さいたま市浦和区

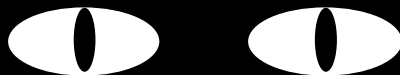
(携帯HP)

東高砂町 11-1

TEL 048-871-2100

FAX 048-884-5500

HP <http://www.lib.city.saitama.jp/>



夜 ヲ 読ム



『夜の神話』 たつみや章作 講談社 1993年

小6の夏、正道は母の田舎に引っ越し、都会との違いにとまどう日々を過ごしていた。
ある日、神社で出会った銀色の目のお兄さんがくれた苦いまんじゅうを食べ、動物や木の言葉が分かるようになった正道。家霊がいうには、あのお兄さんは不思議な力を持つ「ツクヨミの神」らしい。その夜、父と同じ原子力発電所で働く大好きな須賀さんが家にやってきた。でも、悪い病気にかかっているのか、会わせてもらえない。翌日、父から須賀さんが放射能に被爆したことを聞いた正道は、彼を助けたい一心で「ツクヨミの神」に助けを求める…。

『宙(ソラ)の名前』 林完次作・写真 角川書店 1999年

普段私たちが何気なく見上げている夜空。いにしえの人々も同じように空を見上げ、星や月、空の色や光に情緒あふれる美しい名前を付けて物語を紡(つむ)いできました。これは、そんな「宙(ソラ)」の「名前」を記した本です。月、夜、天、星座の章からなり、作者が撮影した美しい夜空の写真とそれにまつわる古くからの言葉、短歌、詩などが紹介されています。
十六夜、夕明かり、朧夜、星の嫁入り、星月夜、月の船、真珠星…。美しい言葉とともに、本で宙(ソラ)を旅してみませんか？



『リ・セット』
魚住直子作 講談社 2003年

中2の三帆は母と2人で海沿いのマンションに暮らしている。ある日、砂浜でキャンプをしている不思議な男から「夜中に穴を掘って底にすわると、穴からでたとき中身がすべて新しくなる」リセット法の話聞く。

『夢十夜 他二篇』
夏目漱石作 岩波書店 1986年

『吾輩は猫である』でおなじみの夏目漱石が描く、幻想的な10の夜の夢。自ら見た夢を書いたのか？ それぞれの夢が何かを示しているのか？ 解釈はあなた次第。第三夜はとても怖いデス…。

『宇宙のみなしご』 森絵都作 講談社 1994年

真夜中に知らない家の屋根にのぼること、それは陽子と弟リンの秘密の遊びだった。普段は彼らを見捨てているように思える世界もその瞬間だけは彼らを中心に回り、その夜を手に入れることさえできるのだ。

『賢治の見た星空』 藤井旭作 作品社 2001年

夜空に輝く小さな星を愛した宮沢賢治。独特な名付けや色鮮やかな描写、彼の描く幻想的な星空は今も私たちを引きつける。そんな「賢治の見た星空」を、天体写真家として有名な藤井旭氏が美しい写真とエッセイで表現した。

『夜の光』 坂木司作 新潮社 2008

飛びたい。旅に出たい。自由になりたい。
家庭や学校で問題を抱え、行き場のない感情を“普通の高校生”という仮面に隠して過ごす4人の天文部員。お互い無関心を貫いていたが、ある夜、偶然に駅ビルの中で全員が顔を合わせる。「昼は他人で、夜は仲間。これってかなりスペシャルな感じがしない？」不思議に通じるものを感じた彼らは、互いにコードネームをつけ“スパイ”として世に潜伏することに…。
個々の事情=ミッションを抱えて戦う彼らは、今日も一杯のコーヒーを手に夜空を見上げる。一つ一つ輝く星は孤独だけれど、どこかでつながっている。



えほんとおそぶ

ほんの
ひととき。



トリック
アート

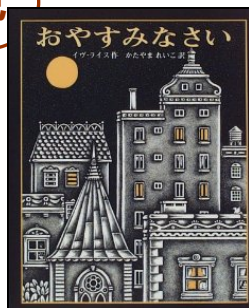


素材
画法
色彩
ことば

『終わらない夜』

セーラ・L・トムソン
ロブ・ゴンサルヴェス絵
金原瑞人訳 ほるぷ出版 2005年

色



『おやすみなさい』

イヴ・ライス作
かたやまれいこ訳
ほるぷ出版 1995年

「えほんはちいさなこどものもの…」なんて思っていないですか？

だとしたら、とってももったいない！！確かにえほんは「絵」の本です。絵を見るだけで意味がわかり、ページをめくれば文字を読まなくてもストーリーがわかります。でも、今回紹介する「えほん」は大人も子どもも関係なく、それぞれに楽しめます。「だまし絵」の手法を楽しんだり、黒と白と黄色という限定した色使いだからこそ表現される世界を味わったり…。

ことばで表現していないものも、絵の中からどれだけ読み取ることができるか、感じるすることができるか。えほんともっともっと遊んでみてください。

人も街も、夜には昼と違った顔を持っている。

夏の夜。大好きな人を誘った花火大会、親友と語り明かした夜、少し和の気分の夏祭り、閉園時間ぎりぎりまで遊園地デート、ドキドキの肝試し、徹夜で読んだミステリー、ひっそり探した流れ星、水のきれいな川辺で眺めた螢。

夏の思い出をたくさん作ってほしい。そう願う「はぴ」から9冊「夜」の本をお届けします。



2010
国民読書年

次回
予告

10号（10月発行）のテーマは「家族」



このブックガイドは2000部作成し、1部当たりの印刷経費は3円（概算）です。